

令和元年

第13回教育委員会会議録

(開会 令和元年12月16日)

(閉会 令和元年12月16日)

岐阜県可児市教育委員会

令和元年12月16日午前9時00分開会

会場：市役所4階第3会議室

出席委員

竈橋義朗君（教育長）

伊藤小百合君（教育委員）

小栗照代君（教育委員）

生駒隆昌君（教育委員）

丹羽千明君（教育委員）

説明のために出席した者

瀨瀬新吾君（事務局長）

奥村恒也君（学校教育課長）

伊佐治 晃君（学校教育課主任指導主事）

小川隆行君（学校教育課指導主事）

辻原詩織君（学校教育課学校支援係）

石原雅行君（教育総務課長）

玉野貴裕君（学校給食センター所長）

堀田 誠君（教育研究所主任指導主事）

牛江明美君（学校教育課学校支援係長）

渡辺英幸君（図書館長）

出席委員会事務局職員

圓藤 亨君（教育総務課総務係）

日程及び審議結果

1 開 会

2 前回会議録の承認

3 教育長報告

4 教育委員報告

5 議 事

① 議案第32号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について（原案可決）

6 報告事項

・ 可児市子どもの読書活動推進計画（第4次）（案）について

7 各課所管事項

8 委員からの提案協議事項

9 その他

10 閉 会

開会の宣告

- **教育長（笹橋義朗君）** おはようございます。
令和元年年末の第13回教育委員会を開会したいと思います。
定足数に関しましては、過半数を満たしておりますので、この会議、成立するという
ことでよろしく申し上げます。

前回会議録の承認

- **教育長（笹橋義朗君）** 前回会議録の承認ですが、10月21日、11月11日の教育委員会会議について。
- **教育総務課長（石原雅行君）** 両会議とも変更はございません。よろしくお願いたします。
- **教育長（笹橋義朗君）** では、変更ないようですので、そのようにお願いしたいと思います。

教育長報告

- **教育長（笹橋義朗君）** 教育長報告ということで、皆さんとともに参加したものについては、皆さんのほうで報告があると思います。

11月27日に、岐阜聖徳学園大学の学長さんが見えて、可児市と2年ごとに、教育実習生の受け入れを頼むという協定をいつも結んでおりますが、このときに見えまして、また今後、岐阜聖徳学園大学の先生の卵を可児市で育成をするということになります。そのときに言ったのは、いい先生を育ててくださいということはもちろんですが、多文化共生の外国人対応の講座というか、教育も今後必要になってきますよねと、可児市は望んでおりますということを申し上げました。余りほかのまちでは、そんなに例はないとは思いますが、今後必要になってくるんじゃないかなということで御提案をしておきました。

それから、12月の議会の一般質問で、中学校部活の今後ということで、だんだん縮小されてきたけれども、どうかというような話がありました。その前の11月30日に軟式野球連盟の納会もありまして、その辺のところでは学校部活はどうよという話がありましたので、もちろん我々は文科省、県教委の基準どおりやっております。そして、それで子供のあいた時間というとおかしいですけど、部活以外の時間を、今後体育連盟を中心として地域に外部指導者のほうで組み合わせて、子供にとっては運動する機会が少なくなるというものではありませんという話をしました。特に可児市は、こういう部活削減が激しいといううわさが出ているようですけど、決してそんなことはないということを委員さん方に御理解願いたいなあとと思います。

朝練については、確かに削減しておると思いますが、毎日の朝、早朝子供たちが出てくる、それも30分、40分の活動時間と、その後1日の授業があるわけで、やっぱり授業を大切にしてもらいたいという思いがありますので、確かに朝練の部分については削減しております。その辺は、子供の体調のバランスとか、時間の余裕とか、まして教員の時間的な余裕とかいうものを目指しておりますので、御理解願いたいなあと

いうふうに思っております。

それから、教育委員会の表彰式についてはありがとうございました、御参加いただきまして。滞りなく終わることができております。また、可茂地区の教育委員会連合会の研修会については御参加ありがとうございました。

私のほうからの報告は以上でございます。

教育委員報告

○ **教育長（笹橋義朗君）** 続きまして、委員の報告ということで、生駒委員お願いします。

○ **教育委員（生駒隆昌君）** おはようございます。

年の瀬も迫ってまいりまして、皆さんお忙しい中、きょうはありがとうございます。

まず11月16日、可児市青少年育成シンポジウムが開催されました。鎌田敏先生の「こころ元気な大人が子どもの未来を築く！」ということで講演がありまして、その中で、人というのはやっぱり休む時間も要る、脳を休める時間も要るんじゃないかということで、やっぱりぼーっとするとか、何も考えない時間をつくって、その中で新しいアイデアというか、やる気を出していくんだという話が私は非常に印象的でした。子供たちも善行少年とか、表彰されておりましたが、そういった部分でも、本当に青少年育成のほうも頑張ってみえるなあというふうに感じました。

続きまして、11月20日に可児市小学校音楽会がありました。私は、ちょっと午前の部の途中までしか聞かせていただかなかったんですけど、本当に4年生の子供たちの元気な歌声がa l aのホールに響いて、本当に癒やされる思いがしました。来年度、a l aの改修によって、少しこの行事も変わるんじゃないかなというようなお話も聞いておりますが、やはり子供たちにとっては、ああいった大きな舞台で発表ができる場所があるということは、小学生の子にもとても大切なことだと思いますので、いろんなやり方があると思いますが、しっかりやっていただければいいなあというふうに思いました。

11月26日、先ほど教育長からもありましたけど、可茂地区の市町村教育委員研修会がありました。私は地教連の会長として参加させていただきまして、そのときの講演の演題が「学校には未来の風が吹いている」ということで、岐阜聖徳学園大学の水川和彦先生のお話だったんですけど、講演の時間が約90分ぐらいあったんですが、本当に飽きないというか、とても一言一言がためになる講演であって、義務教育学校で小中一貫校の白川郷学園の校長先生をされていたということからお話が始まり、いろんな白川郷の子供たちの様子のお話を聞いたり、今のこれからの義務教育がどう変わっていくかという話もしていただき、未来の義務教育というようなことでお話をいただきました。また本当に機会があれば、この水川先生のお話を可児市の中でも、どこかでお話をいただける機会があるととてもいいかなあというふうに思いました。

その後、可茂地区の市町村教育委員会の委員の方、皆さんと懇親会がありましたが、そういった中での話も、可児市の10万人都市から本当に東白川村とか、そういったところの教育委員の方ともお話ができて、その中でやっぱりいろんな課題が幾つもあるんだなというのは感じましたし、逆に東白川村のほうなんかだと、1人に1台タブレットがあって、本当にICTのような教育をされているということを見ると、やはりこれから

はそういった部分も必要になってくるんだなというようなことも感じました。

12月1日、可児市教育委員会表彰式で30名6団体の方が表彰されました。この中には、また教育委員会の所管を来年は離れてしまうという団体の方の表彰もありましたが、そういったことにこだわらずに、教育行政にいろんなお力添えをしていただいた方には、やはり教育委員会としてこれからも表彰していただけるといいなあというふうに感じました。

12月12日、中部中学校の音楽会に参加させていただきました。837人という物すごい大きな人数の学校で、いつもだと朝開演の時間に、バスに乗りおくれたとか、いろんなことで開演の時間がいつもおくれておったんですけど、ことしは本当に5分と違わずに開演して、子供たちもみんな席に座り、本当に静かな中で始まりました。本当に中学1年生の子しか、私は聞けませんでしたけど、本当に元気な歌声で、やはり中部中学校が非常に落ちついているなというのを、一堂集まった場所で感じました。これは校長先生を初め、皆さんが本当に細やかな指導をしていただいているたまものだと思います。以上です。

○ **教育委員（伊藤小百合君）** おはようございます。

11月20日、小学校の音楽会の午前の部に出席しました。合唱している子供の笑顔がすごく多く見られて、聞いていても、こちらもほほ笑ましく見させていただきました。また、指導の言葉があったんですけども、とても具体的にわかりやすく伝えられたので、子供たちも達成感だったりとか、充実感を持てたのではないかと思います。

11月26日に、先ほども生駒委員が話されましたが、可茂地区の市町村教育委員会の研修会に出席しました。水川先生のお話を聞いて、本当に子供自身が未来を切り開く力をつけていくためには、子供を中心として周りが動いていくことが必要だという話を聞きまして、自分もちょうど子供が小・中といますので、改めて考えさせられた話で大変よかったです。

11月28日、広陵中の音楽祭に出席しました。1小1中ということで、例年は帷子小の6年生が歌を披露するんですけども、ことしはそれがなくて、3年生の曲が終わるまでずっと聞いているという形で、初めての交流の場になりました。小学生がやっぱり今まで歌を歌っていたというのを保護者の方も知っているのに、どうして歌わないのという話もあったんですけども、去年の6年生の先生方が、やっぱり1年生だけの曲ではなくて、3年生までぜひ聞かせてほしいということで、ことしは6年生の曲を歌うということは省かれたそうなんですけれども、しっかりと最後まで、結構長時間だったんですけども、6年生の子たちも見ることができていました。中学校の合唱は、やっぱり上に行けば行くほど声量とか、音量も安定感があり、すばらしかったなと思います。

12月13日に、くれよんのクリスマス会に出席しました。人数が多いということで、午前中に約70名、午後から約60名ということで、私は午前中のほうに参加させていただきました。歩き回る子もとても少なく、落ちついた様子で会が行われました。途中、大道芸人の方が見えてパフォーマンスをされたんですけども、その中にも読み聞かせが2回ほどありまして、それもすごく上手にお話をさせていただいて、楽しい時間を過ごすことができました。以上です。

○ **教育委員（丹羽千明君）** おはようございます。

重複しているところを省きまして報告させていただきます。

11月20日に、可児市小学校音楽会の午前と午後と参加させていただきました。それぞれの学校の特徴が出ておりました。大変どの学校も元気で、また力強さと心を一つにしたハーモニーもすばらしかったです。また発表だけじゃなくて、聞く態度もよかったですと思います。

続きまして11月21日、蘇南中学校の音楽会がございました。21日は3年生、22日は1年生・2年生とa1aでございました。それぞれの学級の大変苦勞されて作り上げていたものの発表が終わりまして、全体合唱ということで学年の皆さんの発表がございました。大変迫力もあり、すばらしかったです。

それから、11月28日に可児ライオンズクラブと可児警察署の主催によります薬物乱用防止教室がございました。蘇南中学の2年生、約300人の方に話を聞いていただきました。最近、可児市にも影響がありましたけど、沢尻エリカさんの事件もございましたので、大変注目はされたと思いますが、薬物の怖さと薬物を誘われたらきっぱり断る、そのようなこととお話しさせていただきました。以上です。

○ **教育委員（小栗照代君）** おはようございます。

11月15日ですが、これは教育委員としてではないんですけれども、東明小学校の支援隊の一人ということで、支援隊の皆様感謝する会というのに参加してまいりました。これは全校の子供たちが体育館に集まって、いろいろ感謝するということで催しをしてくださるんですけれども、学年ごとに飾りつけをする学年であったり、歌を披露してくださる学年であったり、かけ合いでいろんな感謝の言葉を言うてくださる学年、それからプレゼントを用意して渡してくださる学年であったり、それから5年生は授業でお米をつくって、それを五平餅にする日だったんですけど、その五平餅もプレゼントということで出してくださいました。

支援隊の方々は、例えば毎日送り迎えに付き添ってくださったり、それから授業のアシスタントをしたりとかということで、いろいろと御苦勞されているんですけれども、子供たちがこのように一生懸命感謝する会を開いてくださって、皆さん本当によかったというふうにおっしゃってました。子供たちも時間を潰して一生懸命練習してくれて、すごく感動的な会だったなというふうに思います。

続いて11月17日、こちらのほうは久々利の地区センターまつり、久々利のふれあいまつりというのがあるんですが、こちらのほうにも行ってまいりました。ボランティアとして毎年中部中学校の希望者の方が参加されて、ことはちょっと少なかつたんですけど、それでもボランティアの方が参加をして、地域の方たちと一緒にあって、いらっしゃる方をお迎えしたりとか、お手伝いを一生懸命してくれたかなあというふうに思っております。

それから、東明小学校の茶道クラブの方も、子供お茶会ということでお茶を振る舞ってくださってました。久々利はお茶室がありますので、そちらのほうにお茶の先生も御一緒にいらっしゃって振る舞ってくれたんですけど、ちょうど始まる前にそのお茶の先生とお話しする機会もあったので、様子をお伺いしました。そうしますと、ふだんの学校でのクラブのときもすごく一生懸命やってくれて、毎年この子供お茶会に参加をさせてもらっているけれども、子供たちは大変頑張ってくれているので、きょうもきつと一

生懸命やってくれるでしょうというようなお話は最初にお伺いすることができました。

続いて11月20日、皆さん、ほかの委員の方がお話しされたように、小学校の音楽会のほうに参加させていただきました。各それぞれ学校ごとに個性的で、一生懸命練習した成果を発表してくれて、素直にほほ笑ましく聞くことができたなあというふうに思いました。

11月26日ですが、可茂地区市町村教育委員研修会に参加させていただきました。こちらにも、先ほど生駒委員や伊藤委員もお話をされたんですけども、やはり一番印象だったのが講師の水川先生の講演でした。これからの義務教育についてというようなところはかなり印象的に思ったんですけども、先ほど皆さんも内容はお話しされたので割愛しますが、終わった後に懇談会がありまして、そのときにちょっと気になったのが、教育関係の方と一緒にお話をしているときに、講演があった水川先生のお話を聞いて、全く想像もしていなかった内容であったというようなことをおっしゃった言葉にびっくりをしたと。要するに、子供たちの未来のことを考えて、こうしていったほうがいいんじゃないかというような御提案もありながらの先生の講演ではあったんですけども、そういったことをふだん考えれず、多分先生方が現場で教えるということがすごく大変なので、ほかのことまできくと気が全然回らないのかなというふうには思ったんですけども、子供たちの未来のことを考えながら教育をしていくことが大事だというお話があったんですが、そういう観点で物事を全然見ていなかったという言葉をお伺いしたときに、現場で働いていらっしゃる先生方に、ぜひこの先生の講演を聞いていただきたいなあというのをすごく強く思いました。それから、自分たちの子供もそうですけれども、子供にもこの先生のお話を一度聞かせてやりたいなあというふうに思いました。以上です。

- **教育長（籠橋義朗君）** ありがとうございます。

それぞれの思いを語っていただきましたが、また事務局のほう、今後の事務の教育の参考となるようにしていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

議事

- **教育長（籠橋義朗君）** それでは、次に議事に入ります。

- **事務局長（額瀨新吾君）** 議案書をごらんください。

表紙の裏ページ、目次のとおり、議案が1件です。

議案第32号 要保護及び準要保護児童生徒の認定についてです。よろしくをお願いします。

- **教育長（籠橋義朗君）** 本日の議案は1件であります。

議案第32号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について及び児童生徒校内事故、問題行動、交通事故等の記録についてに関しては、個人情報やプライバシーに関する情報のため、教育委員会会議規則第14条の規定によりまして非公開といたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議ないようですので、この部分を非公開として、進行上最後にいたします。

報告事項

- 教育長（笹橋義朗君） では、次に報告事項、可児市子どもの読書活動推進計画（第4次）（案）について。
- 図書館長（渡辺英幸君） お願いします。

別冊で教育委員会会議資料図書館ということで、かなりページ数のある冊子がお手元にあるかと思いますが、こちらのほうをちょっと説明させていただきます。

題名は、可児市子どもの読書活動推進計画という題名になっておりまして、括弧して第4次ということでございます。今まで第3次までつくってやってまいりましたけれども、その第3次計画は今年度で終了いたしますので、来年度からは第4次計画ということで新たにつくり直したものでございます。

それでは、1枚めくっていただきまして、1ページのほうをちょっとごらんいただきたいと思っております。

1ページのほうには、策定の趣旨ということが書いてございます。こちらの計画ですけれども、国のほうで子どもの読書活動の推進に関する法律という法律がございまして、それに伴いまして、国のほうで基本的な計画というものを策定しております。それには、県とか市町村で同様の計画をつくりなさいというふうに書いてございまして、そういったものに基づきまして、この計画は成り立っておるというものでございます。

それでは、2ページのほうをちょっと見ていただきまして、2ページから、第3次計画につきまして、その成果とか、現状とか、あと課題につきましてまとめさせていただいたものがつくっております。こちらがずっと続きまして、12ページのほうを開けてください。

12ページのほうには、第4次計画の考え方というふうでまとめさせていただいております。

まずは3-1としまして、求められる子供たちの姿というものを掲げさせていただいて、3-2で目標、それから3-3で基本方針ということなんですけれども、基本方針としましては、(1)としまして、読書好きになる環境づくりをしていきたいということが方針として掲げられておりまして、4つの分野について環境づくりを行うということで、1番としまして人、2番場所、そして次のページの3番機会、それから4番相互連携について、この分野から切り込みを入れていくというような形になっております。

そしてその下、(2)の啓発ということで、やはりこの1、2、3、4をやるだけではなくて、それをいかに皆さんにPRしていくかということが大切ということをごに掲げさせていただいております。

その下、3-4で計画推進の方策ということで、5つの取り組みを掲げております。1番家庭、2番地域、3番図書館、4番学校、5番幼稚園・保育園、こういった5つのところからそれぞれ取り組みを行うというふうに作成させていただいておりますが、今回の特徴としましては、この5つ、それぞれ別々の活動をするのではなくて、お互いに連絡し合って、連携をとってやっていこうというふうなつくり込みになっております。

その下、3-5. 対象としましては、マイナス10カ月から高校生までを対象としております。

それから3-6で、期間としましては令和2年から4年間の計画になっております。

最後、3-7では指標としまして、取り組みを評価するために指標を掲げまして、現状値と4年後の目標値を定めて、取り組みが進んでいるかどうかというものを評価するというようなつくり込みでございます。

次の14ページのほうを見ていただきますと、具体的な方策がおのおの細かく掲げております。

主な取り組みとしまして少し紹介させていただきますが、14ページの真ん中あたりに、2番の②というところにちょっと書いてありますけれども、家庭での読書推進ということで、うちどく（家読）10通帳というものを図書館がつくっております、それは家で読んだ本をその通帳に記入していくというようなものでございます。これをもっとうまく活用いたしまして、家での読書を推進していこうという取り組みがここに掲げられております。

それからちょっと飛びまして、18ページをごらんください。

18ページの8番のところに、中・高生が利用しやすい図書の選書と展示というようなことで、中・高生に対してどのような読書推進を取り組んでいくかということが書いてございますが、その中の④をごらんください。

ブックトークやビブリオバトルなどの講座を企画、実施しますということで、ビブリオバトルという言葉がございまして、これ結構図書館の関係の世界では非常に有名なものでして、注釈は下のほうに書いてございますが、例えば全国高校生大会みたいなレベルまで来ておりますが、なかなか可児市ではこういった実例がございませんでして、もうちょっとこれを、図書館を中心として広めていきたいなあとというふうに思っております。

ちなみに、今年度岐阜県大会のほうに、たしか可児高校の生徒さんが出られまして、3位になっているかと思えます。中学校とか、小学校でのそういった大会とかいうのは、ちょっと話を聞いたことはございませんけれども、県内では高校生大会があるというような状況ですが、それを可児市の中でちょっと始めていきたいなというふうに思っているところでございます。

それから、20ページのほうをごらんください。

14番に、学校との連携というものを掲げさせていただいております。

①のところで、学校の調べ学習や並行読書に役立てるように、学校側と図書館の調整を行いまして、授業内容や行事内容に応じた図書を購入しますというようなことを掲げさせていただいております。

主な取り組みは以上でして、23ページ以降には資料が添付されております。これは、アンケートを実施した結果などが載っております。こういったアンケートをもとに、今回の第4次計画を策定させていただいております。

最後に、44ページをごらんください。

44ページのところに今までの経過が書いてございます。今年度、図書館協議会という協議会のほうで、3回ほどこの計画につきまして協議を重ねてやってまいりまして、このような計画書ができたということでございます。この計画につきましては、来年の1月にパブリックコメントを実施いたしまして、市民の皆さんに御意見をいただいて、3月に完成し、4月から実施というような運びで考えております。

以上で説明を終わります。

○ **教育長（笹橋義朗君）** ただいまの説明に御意見とか、御質問あれば伺いたいと思います。

○ **教育委員（丹羽千明君）** 御説明ありがとうございました。

可児市の特徴として、外国籍の児童が多いということで、土田小などは25%以上見えるということなんですけど、計画の中の大まかなところではちょっと今御説明なかったんですけど、中には書いてございますので、あれですが、充実度というか、外国籍の子供たちに対しての取り組みはどうでしょうか。

○ **図書館長（渡辺英幸君）** 図書としましては、外国語版の絵本とか、子供たちが読めるような書籍などは図書館としては用意させていただいてまして、それも毎年新たに本を購入しております。

19ページをちょっとごらんいただきたいんですけど、19ページの9番のほうに、図書館の取り組みとしまして掲げさせていただいておりますけれども、ここは障がい児や外国籍児童・生徒向けの図書の充実という項目でございまして、その中に、②で多言語の図書の充実に努めますというようなことで、現在外国語の絵本につきましては720冊所蔵しておりますが、こういったものを少しずつふやしていった対応していきたいなあということですが、③のところをちょっと見ていただきますとわかりますように、こういった本を図書館が取りそろえたらいいのかということにつきまして、担当の教師の方と連携を密にしまして、適切な選書のアドバイスをもらうというようなことで、できるだけそういった生徒さんたちが読まれるような本を御準備していきたいなあということがここに書いてございます。以上です。

○ **教育委員（丹羽千明君）** ありがとうございます。

○ **教育長（笹橋義朗君）** ほか、いかがでしょうか。

○ **教育委員（生駒隆昌君）** 先ほど説明はなかったんですけど、20ページの15番のところに、岐阜医療科学大学の連携という部分がありまして、その中で岐阜医療科学大学図書館と相互協力の覚書というふうに書いてあるんですけど、専門書とか、そういった大きな図書になってくると、やっぱりこういう大学の図書館とかが非常に有利になってくると思います。そういったところで、今、高校生向けにとかいうふうにただし書きが書いてあるんですけど、やっぱり一般の方も利用ができるようなふうにしていただいて、いろんな専門書とかになったら、そちらのほうに行って借りてこられるといったようなことも、今後はなかなか可児市の図書館が充実できないようでしたら、そういう協力の中で、そういったものもあるといいかなというふうに思いましたので、またこの部分も教えていただけるとありがたいと思います。

○ **図書館長（渡辺英幸君）** 実は、もう既に一般の方にも貸し出しを行っております。この計画は子供たち用の計画ですので、大人のことについての私どもの図書館の政策については一切触れておりませんので、あえて書いてはございませんけれども、ことしの7月に協定を結びましたので、一般の方も大学の図書を借りることができるようになっております。やはり非常に専門書ですので、今のところ、実績としましてはどなたも借りられたという実績はございませんので、残念に思っておりますけれども、また来年から薬学部が大学に追加されて、生徒数もかなりふえるということで、それ

に伴いまして、大学のほうも図書をかなり大幅に用意されるようですので、今はまだちょっと始まったばかりで図書の数も少ないので、そういったこともあるかと思いませんけど、またそういった4月以降、大学側が図書を準備できれば、またそれもそういう形で、私どもの可児市の図書館のほうで大学の宣伝をさせていただいて、御利用を促進していきたいなあというふうに考えております。

○ **教育委員（生駒隆昌君）** ありがとうございます。

○ **教育委員（小栗照代君）** まずこれは私の経験からなんですけれども、乳幼児学級の役員をやっているときに読み聞かせをしたんですよね。乳幼児学級に参加されるお母さん方って、かなり教育に熱心というか、一生懸命やろうという取り組みでいらっしゃる方だったんですけど、家で絵本を読んだことがなかったというお母さんがかなりいらっしゃったんですね。私が読み聞かせをしたら、子供たちが前のほうに、2歳とか、1歳の子たちがみんな寄ってきて、真剣に聞いてくださるのを見て、ああそうか、絵本を読んであげるといことは、すごく子供が興味を持つんだなあ、うちの子がこんなに興味を持つとは思わなかったということをおっしゃったお母さんが結構いらっしゃったんですね。ですから、小さいときからやはり絵本を読んであげるとか、見せてあげるとか、さわらせてあげるとい状況を教えてあげるといのはすごく大事なことかなというふうに思いました。そのときの子供さんが、今はもう高校生なんですけれども、中学校のときには図書委員長までされて、本が大好きな子になったというお話を後でお母さんから伺いして、あのときに絵本を1冊読んであげたことがきっかけで、ここまで来て本当によかったなと思った記憶があります。

ですから、本当に小さいとき、マイナス10カ月ということももちろんうたっていらっしゃるんですけども、ぜひ乳幼児学級とか、そういったところでどんどん積極的にアピールしていただけたらなと思います。

あとは伺いたいことなんですけれども、うちどく（家読）10の通帳というのがあって、今まで余り普及しなかったと、使われてこなかったというようなことも書いてあったんですけども、これがまた今回出ているというのは、何かこれは理由があるんですか。例えば、それを改善していこうとか。

○ **図書館長（渡辺英幸君）** そうなんです。これは今までも続けてきたものなんですけれども、ほとんど利用されていないような状況の中で、どうしたらもっと子供たちが使ってくれるかなというところで、いろいろ運用方法なんかを見直して、もっと使ってもらえるような努力をしたいなということで、ここに方策として上げさせていただいております。

今考えているのは、この通帳というのは50冊たまらないと図書館から認定証がもらえないんです。ちょっとハードルが高いんじゃないかということで、これからは10冊読んだら何かシールを張ってあげるとか、20冊でとか、30冊でという形で、順番順番、図書館のほうでそういった段階を踏んで、50冊にたまるように対応を変えていきたいなあというものを考えております。そのためには、子供たちがもう少し通帳に興味を持つようなデザインとか、やり方をいろいろ工夫していきたいなあというふうに思っております。

よその市の図書館なんかでも似たような取り組みをしまして、結構そういった取り組みも参考にできるものですから、こういったものが家庭での読書推進にはやっぱり

大切だということは、一般論としてはわかっておりますので、これをやめてしまうのではなくて、もっと活用できる方法を考えていきたいということで、改めてここに掲載させていただいております。

- **教育委員（小栗照代君）** 中学生に配っていらっしゃるということで、中学生がじゃあシールに喜ぶかなとか、そういうことを考えますと……。
- **図書館長（渡辺英幸君）** それは、中学生は中学生の対応というものを考えていけないですし、今お話ししたのは、小さいお子さんでくせをつけてもらうためにはどうしたらいいかということで、ちょっと一例を示させていただいておりますので。
- **教育委員（小栗照代君）** 学校との連携はどうですか。例えば小学校とかですと、個々にそういったものもありますよね。両方でできてしまったりとか。
- **図書館長（渡辺英幸君）** 確かに両方、学校は学校図書館というものがありますので、そちらで借りられるものについてはちょっと私どもの管轄外ですので、学校図書館については学校側でうまくあいに運営していただくんですけども、わざわざ図書館まで来てくれる子供たちに対して、図書館としてどう取り組んでいくかというふうに分けては考えておりますけれども、両方利用してもらえるのが一番ありがたいんですけども。
- **教育委員（小栗照代君）** 子供からすると、図書館で借りるのも学校の図書室で借りるのも、本は1冊読んだということなので、何かそこが一緒に評価をされるような形であれば、より本を読むという目的に到達させたいのであれば、一緒のほうがいいのかなあというのも思いますけど。
- **図書館長（渡辺英幸君）** この通帳につきましては、別に図書館で借りた本だけを記入するという書き方になっていなくて、御自分の家に前からある本を読んだり、本屋さんで買ってきた本を読んだり、学校から借りてきた本を読んだり、とにかく家で読んだ本は全部書けるようになっていきますので、そういった意味では一緒かなあというところはあるかと思えます。図書館で借りた本だけとなりますと、なかなかそれは冊数が進んでいかないので、何でもいいので、家で読書した本は書きなさいというように、こちらのほうも、通帳のほうにもそういうことは書いてございますけれども。
- **教育委員（小栗照代君）** あともう一ついいですか。
やはり今、私の子供などを見ていても、実際の紙ベースの本もちろん読むんですけども、もう少し大きくなってくると、やっぱり電子書籍を読んでいることもかなり多いんですよね。そのあたりのところも、少し探したらあったんですけども、今後はどのような形で推進をしていくんですか。
- **図書館長（渡辺英幸君）** 今回電子書籍につきましても、19ページの10番で軽く触れさせていただいております。電子書籍というのは、全国的に見ましても、各図書館でぼつぼつと導入されてきております。ただ、これちょっと予算的に積算しますと、かなりの金額になりまして、まだすぐ可児市が来年からやるみたいな感じにはいなくて、もう少し計画的に長期的に考えていかないと、可児市では難しいかなというふうに思っておりますが、ただ、電子書籍のいいところというのいろいろ指摘されておりまして、例えば図鑑なんかですと、非常に色鮮やかだったり、動画で見られたり

とか、また音声ですね。鳥の鳴き声とか、そういったものも見られるところで、学習におきましては、やはり電子書籍などは、図鑑などは普通の紙ベースのものとは比べると優位というようなこともわかっていますので、そういった分野からでも手がけていけばよろしいかなというふうに思っておりますけれども、なかなかとてつもない金額です。

○ **教育委員（小栗照代君）** ちなみにどれくらい。

○ **図書館長（渡辺英幸君）** いや、もう本当に何千万円の世界です。ちょっと何百万円では買えないところがありまして、やはりこれは普及がまだされていないので、単価が高いのかなというふうに私は考えておりまして、これが全国的に普及してれば、単価も安くなってきて、対応も可能性が出てくるかなというふうに思っております。

これは、システム的には、1冊の本を何万円かで閲覧ができるように業者から買うわけなんですけれども、これが期限つきでして、3年たつと消えちゃうよとか、そういうような状況ですし、また3年間使わせてもらうという権利を購入するんですけれども、それが1冊何万円という形なので、普通本を買えば1,000円、2,000円の世界が、1冊何万円という状況ですので、その辺はもう少し単価が安くなってから考えていかないかなというふうに考えております。

○ **教育委員（小栗照代君）** わかりました。ありがとうございます。

○ **教育長（笹橋義朗君）** ほかはよかったですでしょうか。

○ **教育委員（丹羽千明君）** もう一件、済みません。

資料の30ページに、中学2年生の読書についてですが、全く読まないという人がふえ続けているので、劇的に。これはスマホの影響が一番大きいかなあとは思いますが、どうですか。

○ **図書館長（渡辺英幸君）** 原因というのは、あくまでも想像でしか、ちょっとつかめておりません。ここにはちょっと出てこないんですけれども、なぜ読まないんですかというようなアンケートをとらせていただいた中で、3ページをちょっとごらんください。

3ページの真ん中あたりに、読まない理由というのをアンケートでとりましたところ、中学2年生の回答で一番多かったのは「時間がない」、2番目に多かったのは「読みたい本がない」、3番目が「読むのが面倒」といったような回答をいただいております。時間がないというのは、やはりクラブ活動が活発になってきますし、塾とか、学校以外に家で過ごす時間というのが、いろいろ小学校と比べると中学生はあれもこれもしないといけないと。家でそんなに遊んでおる暇がないみたいのところから、本を読む時間がないというふうに私のほうはちょっと捉えております。ですから、スマホばかりというわけでもないかなあとは思いますが、そういったその他のいろいろ学校以外でやらなければならないことが、中学校になるとふえてくるのかなというふうに思います。

このグラフからもわかるように、1カ月全く本を読まなかった子供の割合という棒グラフが出ておりますように、小学校のときはそんなでもないんですけど、中学校になって非常に多くの方が、全く1カ月本を読まないというような現状がアンケートからわかっておりますけれども、そういったことで、やはり中学生になると本を読まなくなるのが多いなあということで、私どもとしましては、中学生とか、高校生についての読書の

推進について、いろいろこれから対策を考えていこうというように考えて、先ほど説明しましたように、中・高生のための対策というような項目も取り組みの中につくらせていただいております。

○ **教育委員（丹羽千明君）** ありがとうございます。

○ **教育長（笹橋義朗君）** ほか、いいでしょうか。

○ **教育委員（生駒隆昌君）** 今、中・高生の読書の対策ということで、さっきビブリオバトルのお話が出ておりましたが、中学生、可児市が今現状どうなっておるかということは、ちょっとはっきりしたことは言えませんが、中学生なんかですと、他市町村ですと、ビブリオバトルリレーということで、図書館の中で自分が読んだ本の中のビブリオバトルをやって、その中でリレー形式につなげていくことで、図書館の本を広めていくという活動もやっておりますので、そういったところと市の図書館がどういうリンクをするのかわからんですけど、やっていただくと、このビブリオバトルというのが高校生向けというよりは、中学生にまでおりてきて、やっぱり広がっていく可能性もあると思うので、各中学校が、ちょっと図書館の取り組みまで詳しく今認識はしていませんが、そういったところの中で広げていっていただける方法として、ツールとして使っていただくとありがたいなあというふうに思います。

○ **教育長（笹橋義朗君）** ほか、いいでしょうか。

じゃあ、私のほうから少し。

今はやりの論理的思考力や物の見方とかは、ICTではなく本だと思っているんですけども、やっぱり読書は最も大事なことだと思います。所管が教育委員会ではないということだけでも、我々も学校の図書館があるし、ことしの視察では、米子市の図書館へ行って、先進的な活動をしているということで研究もしながら、そこの特徴としては、やっぱり学校の図書館との連携が非常にうまくいっているという話で行って来ました。可児市は、ここにも学校との連携とか、教員との協議をする場を設けるとか書いてあるんですけども、これは今現状はどうなんですか。

○ **図書館長（渡辺英幸君）** 現状は、それほど活発に連携はとれておりません。そこが足りないと思いましたので、ここにわざわざ上げさせていただいています。

○ **教育長（笹橋義朗君）** 具体的にこういう機会を、先生と図書館が協議する機会が、議題は何にしてもあるといいなあというので、ぜひこれは期待しているし、子供の成長はどこでも、我々も図書館のほうもやっていただかなきゃいけないので、目的を一つにして、たまには説明しに来てください。

○ **図書館長（渡辺英幸君）** 先ほど3つほど、私、取り組みにつきまして説明させていただきましたけれども、その中の一つということで、私ども、今の話につきましては来年度の重点政策だというふうに考えておりますので、説明はさせていただきました。

○ **教育長（笹橋義朗君）** ほか、よかったですかね。

〔挙手する者なし〕

ありがとうございました。以上で報告を終わりたいと思います。

各課所管事項

- 教育長（笹橋義朗君） それでは、各課所管事項に入ります。
- 事務局長（瀬瀬新吾君） それでは、12月議会の状況について報告をさせていただきます。

まず、12月4日と5日に行われた一般質問では、4件について答弁をしました。少しお時間をいただいて、概要について報告をします。

まず富田議員からは、安全・安心な学校給食について質問がありました。残留農薬が検出される輸入小麦粉、それから遺伝子組み換え食品などの安全性に対する懸念についての御質問で、輸入小麦粉については、農林水産省や厚生労働省による検査を受けて、国内では安全なものが流通をしている。そして、購入先の岐阜県学校給食会が検査をしまして、その検査の結果では問題がなかったということをお答えしています。また遺伝子組み換え食品については、市の給食用物資購入選定委員会で遺伝子組み換え食品ではないことを確認して購入していること、そのほか食材の地産地消とか、プラスチックごみ削減についての質問がありましたので、お答えをしております。

それから2人目は、先ほど教育長からも話がありました部活動についてで、板津議員から部活動の現状と今後についてという御質問がありました。部活動や保護者クラブ、それから外部指導者の活用状況などについてまずお答えしたほかに、現在検討していることとして、部活動に準ずるような活動を行う保護者クラブへの支援ができないか、また市の文化スポーツ部や体育連盟との連携について協議をしていること、そして市内のスポーツ団体と連携をして、ジュニア期のスポーツ振興の一翼を担いたいといったお答えをいたしました。

3人目は、山田議員から市の防災対策に関連して、東日本大震災で、大川小学校で多くの児童が亡くなっていますけれども、それに係る最高裁の決定について、市の見解などについて質問がありました。これについては、教育委員会や学校が児童・生徒の安全確保に係る責務の重大さを痛感していること、そして現在、県の教育委員会の指示を受けまして、各学校に危険等発生時対処要領、これは危機管理マニュアルでありますけれども、それを点検して、見直し、改善を図っていくといったお答えをいたしました。

4人目は、渡辺議員から学校給食でのアレルギーフリー化についての質問がありました。現在、食物アレルギーについては全児童・生徒に調査を行って、希望者には詳細な献立表ですとか、給食に含まれるアレルギー物質についての資料を送っているということ、そして可児市の給食センターでは、いろんなアレルゲンを持つ児童・生徒に対応する給食を安全に提供することは困難であって、完全に食物アレルギー物質を除去した給食を実施する予定はないといったことをお答えした上で、可児市としては、食物アレルギーに部分的に配慮した形での給食の提供に努めていること。例えば、てんぷらやフライの衣に使っている卵のかわりにベーキングパウダーを使ったり、小麦粉のかわりに米粉を使ったり、そういった給食などでできる限り対応していきたいといったお答えをしております。

次に、12月12日に開催された教育福祉委員会では、前回の教育委員会会議でもお出ししました次期の可児市教育振興基本計画のパブリックコメントに付する案の説明、それからばら教室KANIの現状について説明をいたしました。

11月のこの会議において、議会に12月に説明するとしてお出しした可児市教育に関する事務

の職務権限の特例を定める条例の一部改正について、それから後ほど学校教育課から説明をさせていただきますが、ばら教室の拡充案については、年明けて改めて、今のところ2月に予定のある教育福祉委員会で説明するということにしますので、よろしくお願いいたします。以上です。

- **教育総務課長（石原雅行君）** それでは、教育総務課で今年度重点項目として上げました大規模工事の進捗状況について説明をさせていただきます。

令和2年度、3年度に蘇南中学校の大規模改造工事を実施するというので、今年度につきましては、お手元に工事配置図をお配りをさせていただいておりますが、増築校舎を建設するというものです。

一番上に赤い色で、仮設校舎2階建て8教室・トイレというところですが、この赤いところに、この1月から工事を着工するというので、12月に部室とか、器具庫があったんですが、全て撤去をしまして、真っさらな状態になっております。1月に着工しまして、令和2年7月には完成をする予定です。8月から、新たな大規模工事を進めていきたいという予定にしております。

あと、続いて旭小学校の低学年用トイレの洋式化工事を実施するというものがありました。こちらですが、既に夏休みの間に低学年用トイレの洋式化をしております。女子トイレが3カ所、男子トイレは1カ所をつけております。それによりまして、現在の可児市の小・中学校のトイレ施設の状況ということで、細かいA3でもう一枚下につけてあるものですが、現状で可児市内のトイレの洋式化がどれだけあるかというものになります。

一番上のところで、可児市全体ですが、細かい数字で申しわけないですが、今現在888基の可児市内の小・中学校でトイレがあります。うち、404基が洋式化されているということです。率としまして、全体で45.5%の平均になります。これ自体は、全国平均というのが、平成28年度の統計になるんですが、43.3%ということですので、全国平均よりは、当時の数字と比べるとはちょっとおかしいなというものもあるんですが、45.5%ですので、多少はいいということになります。岐阜県平均は、ちなみに40%となっております。

真ん中の段ですが、低学年になります。低学年が、136基あるうちの120基が洋式化されております。これは88.2%ということになります。これは、今まで低学年を中心に整備をしていくというのが目標でありましたので、ほぼ達成しているということになります。一番下は割愛させていただきます。これらを状況として報告させていただきます。

続いてですが、旭小学校と南帷子小学校の校舎の屋根の防水工事を実施するというものがありました。資料はお手元にお配りしておりませんが、こちらについては、旭小学校については12月に完了しております。あと南帷子小学校についてもほぼ完成ということで、12月中には完了検査を実施する予定になっております。以上です。

- **教育長（籠橋義朗君）** では、質問はまた後にお問い合わせしたいと思います。
- **学校教育課長（奥村恒也君）** よろしく申し上げます。

先ほど事務局長のほうからの話の中にありました第2ばら教室の設置についてのこれまでの動き、11月以降の動きと内容について、ここで御報告をさせていただきたいと思っております。

11月のこの場で、第2ばら教室について方向性を報告させていただいたところでございますが、その後、先ほど話もありましたけれども、議会のほうで予算決算委員会のほうから、ばら教室の現状と今後の課題について、対応も含めて質問をもらいました。それと同時に、教育福祉委員会のほうにおいても、ばら教室の現状と今後についての報告をしております。

先日、12月13日ですけれども、市長のほうに、今、お手元に教育委員会会議資料ということでA4表・裏の資料を配らせていただきましたけど、この資料と同じ内容のものをもとに市長説明をしました。この内容について少し、これまでもお話をさせていただいたところとかぶりますけれども、御報告をさせていただきたいと思っております。

まず、これまでの経緯ということで、今年度の10月まで、それから11月以降の対応についてですけれども、11月でも2部制を行いますということをお話をさせていただきましたが、10月までの待機児童が、下の参考資料2にございますように、多いときには9月の25名というような状況で、フレビアのほうにも随分と負担をかけてしまいまして、待機児童の対応にも当たってまいりましたけれども、ばら教室の2部制を行うことによって、11月からは待機児童がゼロということになっております。ただ、やはり午前・午後ということで半日のカリキュラムを組むことによって、朝の会のときに、午後行っていた内容を通常の指導を重ねて行ったりというようなことで、子供たちのほうにも、ややそうした負担をかけているというところもございます。

今、そうした2部制を行っているところですが、暫定的な措置として今は行っているということで、また今後、ことしの子供たちの増加傾向を参考資料の1で示させていただいておりますけれども、もう既に11月の時点で、昨年度比の1.5倍以上の子供たちの編入・転入がございます。今後もふえていく可能性がございますので、こうした子供たちの待機をなくすことと、それから、やはり充実した教育の場の保障ということを考えてときに、第2ばら教室を設置するということが重要になってくるというふうに考えております。

具体的な設置場所等々につきまして、前回もお話をさせていただきましたけれども、現在、広陵中学校に設置を考えているということで、メリット及びそれに対する留意点等、そこの1枚目の下のところにまとめさせていただいております。

また、裏面のほうにおきましては、どういった形態で第2ばら教室と第1ばら教室、仮称ですけれども、運用していくのかということについて、おおむね前段階と後半の段階とに分かれて、前半を第1ばら教室、そして後半のほうを広陵中学校の第2ばら教室のほうで行うという方向を今考えているところです。後半を広陵中学校のほうでというふうにしておりますのは、やはり4段階から6段階までを学んで、それぞれの学校に子供たちが分かれていくわけですので、より学校の生活環境になじむことができるよう、学校生活を間近で見ながら学習ができるようにということを考えてものでございます。

指導員の配置等につきましては、今、予算要求をしているところでございますので、確定になりませんが、今後そこにありますような人員の配置・確保を考えております。

また、スケジュールにつきましては、第2ばら教室、これは予算要求が確定をして、とった段階でこのような流れを考えているところです。2月議会において議会説明をさ

せていただき、広陵中学校のほうの保護者、それからばら教室の保護者への説明を行って、新規採用職員を4月から研修を行い、5月から教室開室というような運びにしていきたいというふうに考えているところです。

予算につきましては、最終的にまだ確定をしておりますけれども、下記のように予算要求を行っているというところで示させていただきました。

以上になります。よろしく申し上げます。

○ **教育研究所主任指導主事（堀田 誠君）** 現在ですが、令和2年度の行事や研修等の調整等を行っています。後ほど教育委員さんのほうからも御意見を聞きたいと考えていますので、よろしく申し上げます。以上です。

○ **学校給食センター所長（玉野貴裕君）** 来年度からの包括業務委託が東洋食品にということはお知らせをしたとおりでございますが、現在そのための準備を逐次行っているところでございます。今年度で終了いたしますPFI事業のSPC会社との引き継ぎに重ねて、今度新しく受託する東洋食品の同じ会議の中に加わったりとかという形で、切れ目のない給食業務の実施ということで順次進めているところでございます。

調理員の方々につきましても、株式会社東洋食品との面接も終わりました、今年中にはそれぞれ最終の決定という通知をさせていただくと伺っておりまして、年明けの、1月中にはそれぞれ変更の意向もございまして、そういった最終確認をさせていただいた上で、調理員の確保も順次進めていくと伺っているところでございます。

あと、これも皆様方に御案内を差し上げていくことになると思いますけれども、ふれあい給食を、またことしも1月31日に帷子小学校で実施をしたいと思っておりますので、御参加のほう、ぜひよろしくお願ひしたいと思っております。11時40分から開始をさせていただきたいと思っております。例年のように、生産者とか、給食に携わる方々との直接の、教室に入っただいて給食をともに食べていただくというふうなことで、交流をしていただきたいと思っております。

このふれあい給食の実施の前後につきましても、全国的に行われております給食週間ということで、こちらにつきましても、郷土食といった献立のほかにも、ことしは大河ドラマの関係もございまして、信長御膳を再現しようということで、岐阜市さんが勧めてみえた献立も可児市のほうでやっていきたいなということで、連携という形での実施をしたいと思っております。その中では、大河ドラマの推進のキャラクターということで、「10才（てんさい）みつひでくん」というキャラクターを紹介させていただきながら、地元にゆかりの戦国武将ということで、子供たちにも知っていただくようPRしていきたいと思っております。以上でございます。

○ **教育長（籠橋義朗君）** ざっと説明していただきました。

説明に対して、御質問、御意見ございましたらお願いします。

○ **教育委員（生駒隆昌君）** まず、大規模改修のほうはよろしくお願ひしたいと思います。

あと、さっき可児市中学校のトイレ施設の状況ということで、404基の設置があるというお話でしたが、細かくこれを見ていくと、中部中学校のような大規模校が、設置率が非常に悪い。中部中学校の場合ですと本当に数個しかないというか、女子に関しても6個、洋式は。男子でも6個しかないという、900人ぐらいある学校で洋式がそれだけ

しかないということやと、ちょっと合計の数だけ見れば達成しておるという判断かもしれないんですけど、個々の学校の例でいくと、ちょっといかにも少ないんじゃないかなというふうに思いますが、いかがでしょうか。

- **教育総務課長（石原雅行君）** 数字を見ますと、中部中学校、おっしゃるとおり88基のうちの11基ですので、少ないと思います。現時点で予定はないですが、検討する必要があると思いました。
- **教育委員（生駒隆昌君）** ちょっと毎回学校へ行かせていただいても、その辺のところは劣悪だというような話も聞いておりますし、やっぱり率というよりは、個々の学校の生徒数とか、状況も考えていただいて、今後は設置に関するのをやっていただかないと、少し偏りが出てしまうかなというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。
- **教育総務課長（石原雅行君）** ありがとうございます。
- **教育委員（小栗照代君）** 今の生駒委員の続きになってしまうんですが、数ももちろんそんなんです。中部中って少ないんですけども、古さというか、きれいさという面でも子供たちは本当に困っているんですね、中部中。うちの子も中部中だったので、よくわかるんですけども、とにかく学校でトイレに入りたくないといって、我慢してうちに走って帰ってくるというようなことを皆さんしているので、そういった目線でもやはり見ていただかないと、一番大事なところだと思います、生活で。
- **教育総務課長（石原雅行君）** 中部中については、本年度の教育委員さんの訪問の後に修繕を図っております。また機会がありましたら見ていただければと思います。
- **教育長（籠橋義朗君）** ほかの中学校はこんなこともないんだな。整備率としては、中部中学校はおくれていると。
- **教育総務課長（石原雅行君）** はい、中部中学校は……。
- **教育委員（生駒隆昌君）** 異常に少ないですよ。
- **教育総務課長（石原雅行君）** そうですね。
- **教育委員（丹羽千明君）** においの問題もあるしね。
- **教育総務課長（石原雅行君）** はい。においは今年度改修を図っています。
- **教育長（籠橋義朗君）** ほか、よかったですでしょうか。
- **教育委員（生駒隆昌君）** 学校教育課長、第2ばら教室の説明ありがとうございました。

先日も、岐阜新聞のほうに外国籍の子の不就学ゼロを目指す可児市というようなことが書いてありましたが、今現状は、児童総数は何名ぐらい見えるんですか。増加率は多いという感じですけど、総数的な部分でいくと。

- **学校教育課長（奥村恒也君）** 総数ですと、11月1日の統計ですけども、外国籍児童・生徒は小・中合わせて734名です。うち、日本語指導が必要であるという児童・生徒は388名ということになっております。
- **教育委員（生駒隆昌君）** この新聞記事には、昨年5月時点ということで617人と書いてあったんです。今の11月1日現在734人ということで、非常に危機的な増加というふうに思います。その中で、今、第2ばら教室を考えて、検討していただいているんですけど、その中でやっぱり指導者というものが非常に必要になってくるというこ

とで、予算的にもほぼ指導者の給与・賃金ということにはなってくると思うんですけど、これは、例えばフレビアさんと協力してうまく見つけていくということも考えてはみえるんですか。

○ **学校教育課長（奥村恒也君）** 今おっしゃっていただいたように、通訳ではなく、やはり子供たちへの指導をしていただかなければならない指導員の方になりますので、いろいろなところにちょっと声をかけさせていただいて、フレビアさんももちろんですけれども、そうした方々から情報を得ながら、募集も含めて、指導員の方を選出、配置をしていきたいというふうには考えております。

○ **教育委員（生駒隆昌君）** また、この設置における留意点の中で、広陵中学校の生徒たちに与える影響について書いてありますが、広陵中学校の子供たちの学校に外国籍の子が少ないからという理由ではなく、広陵中学校の生徒の皆さんにも、要は共通に多文化共生といったことも、蘇南中や、今、各中学校で起こっている外国籍の子供たちと一緒に学ぶという環境を前向きに考えていただくというような、不安視という考え方というよりは、一緒にやっていってくれるかなとか、ともに学んでくれるかなというようなスタンスで先生方、生徒、保護者にも十分な説明をするというふうな解釈のほうがよしいんではないかという、不安視という、その不安というよりも希望というふうなとり方のほうがいいのかというふうに、ちょっと文章的には思ったので、広陵中の、もちろん今、伊藤委員見えるので、一番よくわかってみえると思いますけど、そういう中で、そうやって多文化共生をしていくんだよというふうな感覚で言っていただけるのがいいかなと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○ **学校教育課長（奥村恒也君）** ありがとうございます。

やはり今、広陵中学校は外国籍の子が中国籍の子がお一人いらっしゃるということで、ある意味、蘇南中とか、土田小、今北小とは全然違う中で子供たちが学校生活を送っています。やはり子供たちというよりも、職員のほうに若干不安視をする声も聞かれなくはないですね。

先日、12月入ってから職員のほうにも、ばら教室の室長も、それから教育委員会のほうもお邪魔して説明をさせていただいて、学校長のほうは、ぜひこういう機会を捉えて、今、生駒委員がおっしゃっていただいたように、前向きに捉えていきたいというふうにおっしゃっていただいておりますので、その辺の意向と、本当に確かに十数年前はいろいろ不安な部分というのもあったかと思うんですけれども、今は本当に子供たち一生懸命ばら教室で学んでいるという形ですし、学校で一緒に多文化共生という形で生活をして、お互いにいい環境の中で生活をしていますので、そうしたことを伝えていながら、逆にそのことをよさとして捉えていけるように、まだ開設をしてから、時間とか、ステップは必要だと思うんですけれども、いい影響をお互いに与えられるようにしていきたいというふうに願っております。また、そういう意味で保護者の方にも、職員、子供たちへの説明を進めていきたいというふうに思ひます。ありがとうございます。

○ **教育委員（生駒隆昌君）** 本当に小学校の音楽会を見ても、外国籍の子、何人か立っているとわかるんですけど、そういった子も全く変わりなく一緒に合唱してみえるし、中学校を見ても、本当に我々が学校訪問へ行っても、どの子が外国籍の子ですか

というぐらい溶け込んでみえるので、最初に不安感というよりは、やっぱり一緒にや
っていくんだという気持ちが大いほうペースも早くなれてくると思うので、そこ
ら辺を大事にさせていただきたいなあというふうに思いますので、本当によろしくお願
いします。

- **教育長（笹橋義朗君）** ほか、よかったでしょうか。
- **教育委員（小栗照代君）** かなりのペースで外国籍の方がふえているというお話が
今あったんですけども、今、第2を計画ということで進めてくださっているんです
が、今後の見通しとか、例えば今度第3とか、そういうこともあり得るんですか。
- **学校教育課長（奥村恒也君）** 今、ちょっと第3までは想定はしていません。と
りあえず今の第1ばらで定員が35名、第2ばらができると、合わせて70名までが対
応が可能になる見通しで今考えておりますので、これまでの傾向からすると、70名が
いっぱいいっぱいということはないであろうとは想定をしています。

ただ、今後も本当に見通しが立たないというのが実際のところで、外国籍の子供たち
の入りについては。また、今後入管法の改正に伴って入ってくる状況も変化してくると
思いますし、また多国籍化等のことも出てくるかと思っておりますので、そうしたことへの対
応もあわせながら考えてはいますけれども、何とか第2ばらまでで対応は可能であろう
という考えでおります。

- **教育長（笹橋義朗君）** 定員35人というのは、回転しながらの35人なので、学校で
百何人とかというどんどんふえていくんですけど、ばら教室は回転しながらの定数で
すから、これが70人が回転し出したら、学校の経営のほうが大変なことになるので、
そこまではいかないとは思っていますけどね。

ほか、よかったでしょうか。

[挙手する者なし]

委員からの提案協議事項

- **教育長（笹橋義朗君）** それでは、次の委員からの提案協議事項について、ござい
ますでしょうか。
- **教育委員（生駒隆昌君）** 先日も新聞記事とかでちょっと見ておったんですけど、
美濃加茂市なんかですと、蜂屋とか、あっちのほうで、特認校制度でしたか、ああい
うのを今しいていて、小さい学校はどこからでも自由に通学していいよというような
制度もあるみたいですので、可児市としても、兼山小学校とか、大規模校も含めてで
すけど、そういった制度を今後どういうふうに考えていくかということも、外国籍の
子も含めて、今後ちょっと議論の中に入れていただけるといいかなというふうに思
いますので、別に取り急ぎというわけではありませんが、その制度についても、やっ
ぱり取り組みの内容とかを一度教えていただけるといいかなというふうに思いますので、
いかがでしょうか。
- **教育長（笹橋義朗君）** 学校教育課長、その辺の資料作成のほう、お聞きして、ま
た説明してみてください。
- **学校教育課長（奥村恒也君）** わかりました。
小規模特認校、大規模、それから外国籍というお話も今いただきましたけど。

- **教育委員（生駒隆昌君）** そうですね、いろんな事例があるとは思いますが、今現状の可児市が抱えておる状況の中で、今後適正規模をまた考えていかなきゃいけない時期になってくると思うので、その部分で、方向性としてこういった制度もあるんですよということを一度ちょっと教えていただくとありがたいなあというふうに思います。
- **学校教育課長（奥村恒也君）** 特認校という意味合いから、今の課題に対応できるような制度の活用ができないかどうかということでございますね。わかりました。
- **教育長（籠橋義朗君）** 教育総務課長、適正規模の報告はいつでしたか。
- **教育総務課長（石原雅行君）** 2月に行います。
- **教育長（籠橋義朗君）** その辺で一緒にやるといいと思うので。ほかに提案ありますでしょうか。

〔挙手する者なし〕

その他

- **教育長（籠橋義朗君）** それではないようですので、その他に移ります。次回の日程についてお願いします。
 - **教育総務課長（石原雅行君）** 来年1月20日月曜日午前9時からお願いいたします。これは先月決めていただいた日程です。
 - **教育長（籠橋義朗君）** これはよかったですかね。
- 〔「はい」の声あり〕
- **教育総務課長（石原雅行君）** 2月ですが、2月17日月曜日午前9時からいかがでしょうか。
 - **教育長（籠橋義朗君）** よろしかったですでしょうか。
- 〔「大丈夫です」の声あり〕
- **教育総務課長（石原雅行君）** この日は、今の学校規模適正化の話もしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。教育政策会議になります。
 - **教育長（籠橋義朗君）** それでは、この後、教育委員会の非公開案件を行いますので、休憩をしたいと思います。45分に再開したいと思いますので、よろしく申し上げます。

（学校給食センター所長、図書館長退席）

休憩 午前10時31分

再開 午前10時45分

- **教育長（籠橋義朗君）** それでは、会議を再開します。

（以下非公開）

（以上非公開）

閉会の宣告

- **教育長（籠橋義朗君）** これをもちまして教育委員会会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

閉会 午前11時11分